《歴史の小径》を歩く

―館林・城下町 古地図散歩―

館林城・城下町と「歴史の小径」について

館林城は、市のほぼ中央に位置し、「城沼」に突き出した台地上に築かれた平城で、文明3年(1471)に文献史料に初めてその名が登場します。戦国時代は、越後の上杉氏、甲斐の武田氏、小田原の北条氏による勢力争いの中で、上野国(群馬県)の重要拠点として位置づけられていました。江戸時代には、徳川四天王の一人である榊原康政が館林城主となって城郭と城下町の整備に力を注ぎ、その後、徳川綱吉や松平乗、秋元家など親藩・譜代の7家の大名が城主となりました。

城下町は土塁と堀に囲まれ、町外に通じる5つの御門が設けられていました。南の江戸口御門と北の佐野口御門を結ぶ道「日光脇往還」、西の太田口から城の大手門に繋がる道の「古河往還」、さらに大手門前広場から「大辻」を経て町の中心部を西に抜ける「竪町の通り」の三本の幹線道路が城下町の骨格を形成し、現在に至っています。縁辺には多数の寺院が町を固めるように配置され、その内側の道沿いに、間口が狭く奥行きが深い町屋が軒を連ねていました。

明治時代を迎えると、近代産業の勃興や鉄道の開通とともに、館林は製粉業や織物業を中心として発展し、館林城の跡には工場の建物群が立ち並んで新たな時代の象徴となりました。昭和50年代以降に工場は移転し、現在は市庁舎や文化施設、公園などに姿を変え市民に親しまれています。

一方、城下町は、戦災による家屋の焼失を免れたため、古い建物が今でも残り、歴史を感じさせる風景が随所に見られます。

「歴史の小径」は、館林駅前から館林城土橋門を結ぶ約1.5kmの道で、古地図の上では、城下町南西隅に位置する「善導寺」の西を起点に、新紺屋町、本紺屋町を東に抜けて「日光脇往還」を横切り、さらに肴町、鍛治町から堀を渡り、武家屋敷街の鷹匠町を通って三の丸の土橋門へと至ります。おもに堀の西が町人の住む町人地、東が館林城内の武家地で、当時の堀に橋は無く、堀を境に武士と町人の住み分けが明確になされていました。現在、堀は埋められましたが、その名残を見ることができます。武家屋敷の界隈には移築復元された「旧館林藩士住宅」などが立ち並び、江戸時代の館林の風情を感じることが出来ます。

※城下町の町名は昭和42年・44年に変更されました。

「歴史の小径」周辺図の史跡・名所(五十音順)

【名　称】　【所在地　(　)は旧町名】

1. 青梅神社(青梅天満宮) …… 本町二丁目(谷越町)
2. 大手門跡の碑 …… 大手町(大名小路)
3. 尾曳稲荷神社 …… 尾曳町(稲荷郭)
4. 旧秋元別邸 …… 尾曳町(八幡郭)
5. 旧織物試験場跡※ …… 仲町(本紺屋町)
6. 旧上毛モスリン事務所 …… 城町
7. 旧館林信用金庫(市民センター分室) …… 仲町(竪町)
8. 旧館林二業見番組合事務所 …… 本町二丁目(寿町)
9. 旧館林藩士住宅 …… 大手町(鷹匠町)
10. 旧福志満旅館 …… 本町二丁目(谷越町)
11. 旧町屋地区の住宅 …… 本町二丁目(谷越町)
12. 毛塚記念館(分福酒造店舗) …… 仲町(本紺屋町)
13. 結屋町公園 …… 仲町(本紺屋町)
14. 榊原康政の墓跡の碑 …… 本町二丁目(谷越町)
15. 正田記念館 …… 栄町(目車町)
16. 城沼
17. 製粉ミュージアム本館 …… 栄町(目車町)
18. 青龍の井戸 …… 本町二丁目(寿町)
19. 千貫門跡の碑 …… 城町(三の丸)
20. 大通寺 …… 本町二丁目(谷越町)
21. 鷹匠町長屋門 …… 大手町(鷹匠町)
22. 鷹匠町武家屋敷「武鷹館(ぶようかん)」… 大手町(鷹匠町)
23. 竜の井(たつのい) …… 本町二丁目(谷越町)
24. 館林駅 …… 本町二丁目(谷越町)
25. 館林邑楽武道館 …… 代官町
26. 館林カトリック教会 …… 大手町(加法師)
27. 館林市役所 …… 城町(二の丸)
28. 館林城本丸跡 …… 城町(本丸)
29. 館林城鐘(応声寺) …… 西本町(木挽町)
30. 館林城土橋門 …… 城町(三の丸)
31. 館林城の堀跡(三の丸付近) …… 城町(三の丸)
32. 館林城の堀跡(鷹匠町付近) …… 大手町(鷹匠町)
33. 田山花袋旧居 …… 城町
34. つつじが岡公園 …… 花山町
35. 外池(とのいけ)商店 …… 本町二丁目(鍛治町)
36. 日光脇往還 …… 本町～二丁目他
37. 初生稲荷神社 …… 本町二丁目(寿町)
38. 町検断の門 …… 本町二丁目(谷越町)
39. 向井千秋記念子ども科学館 …… 城町(本丸)
40. 龍神酒造 …… 西本町(塚場町)

※は消滅

江戸時代後期の城下町と「歴史の小径」周辺図



<凡例>

土居(土塁)	神社・寺院
道路	家中(武家)屋敷・郭
堀・川・沼	町屋(家)
御用地	御用地内町屋

※記載内容は、秋元氏時代の「館林城絵図」と嘉永元年(1848)の「館林城下町図」を参照した。下図は館林市都市計画図(平成4年)を使用

ここに紹介した水彩画は、市内在住の恩田昭さんが館林の城下町に残る江戸時代から明治・大正・昭和にかけて建てられた特色ある建物を描いたものです。

館林市と城下町の位置



館林市の概要

群馬県東端部に位置し、栃木県、茨城県、埼玉県とも近接しています。市域の広さは東西約15.5km、南北約8.0km、面積約61㎢。標高は、海抜14 ～ 33mです。

昭和29年(1954)に邑楽郡内の1町7か村が合併して、現在の館林市が誕生しました。

平成28年3月現在の人口は77,698人です。

《歴史の小径》を歩く
――館林・城下町 古地図散歩――

平成28年3月31日

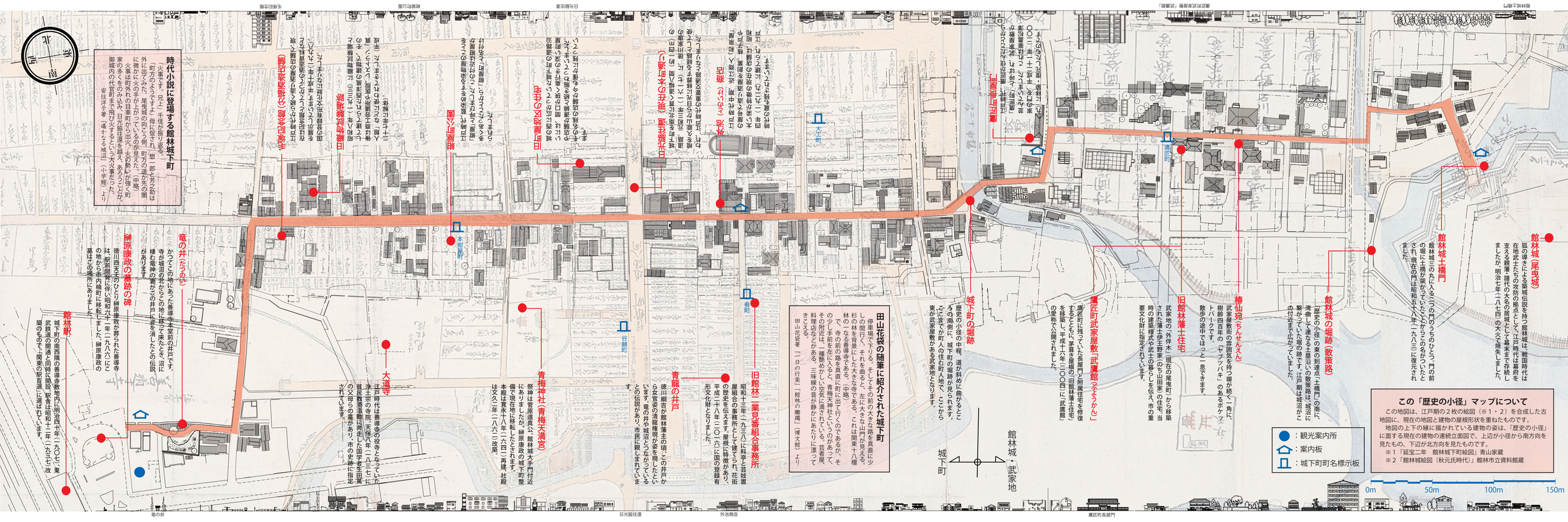
編集・発行　館林市教育委員会　文化振興課
〒374-0018　館林市城町3番1号
TEL 0276-74-4111

印　刷　朝日印刷工業株式会社

協 力 者　青山守治氏　恩田昭氏

編集協力　東京電機大学未来科学部
建築学科建築史研究室

図版提供　館林市史編さんセンター
館林市立資料館


館林城（尾曳城）
狐の導きによる館城伝説を持つ館林城は、戦国時代には在地武士たちの攻防の拠点として、江戸時代は幕府を支える親藩・譜代の大名の居城として繁栄をもたらしました。明治七年（一八七四）の大火で焼失しました。
館林城土橋門
館林城への入口にあった二つの門のうちのひとつ。門の前の堀には橋が架けられていたとされ、現在の門は昭和五十八年（一九八三）に復元されました。
館林城の堀跡（散策路）
「歴史の小径」の東の到達点「土橋門」の南に、湾曲して連なる土塁沿いの散策路は、城沼に繋がっていた堀の跡です。江戸期は城沼かこの付近まで広がっていました。
旧館林藩士住宅
武家地の「外様大一」（現在の尾曳町）から移築された藩士（中士野家）の七山田家）の住宅。当時の建築様式や武士の暮らしを伝える市の重要文化財に指定されています。
椿仙苑（ちんせんえん）
武家屋敷街の雰囲気を持つ一画が続く一角に、樹齢四百年の「ヤブツバキ」のあるポケットパークです。散歩の途中でほっと一息できます。
鷹匠町武家屋敷（武鷹館（ぶようかん））
鷹匠町に残っていた長屋門と附属住宅を修復するとともに、茅葺き屋根の「旧館林藩士住宅」を移築し、平成十六年（二〇〇四）に武鷹館の愛称で公開されました。
城下町の堀跡
歴史の小径の中程、道が斜めに曲がるところの南側に、城下町の堀跡が見られます。ここまでが町人の住む町人地で、ここから東の武家屋敷がある武家地となります。
館林城・武家地
城下町
田山花袋の随筆に紹介された城下町
停車場で下りる。そしてその前の大きな路を真直に少しの間行く。それを曲ると、左に大きな山門が見える。杉の林を背景にした大きな寺である。これは関東十八檀林の一なる善導寺である。（中略）
で、寺の前の路を真直に町に出て行くのであるが、その少し手前を左に入ると、青梅天神社というのがあって、その附近は、種魅かがしい空気に満されている。芸者屋、料理店などがある。三味線の音が静かにあたりに漂ってきこえる。
田山花袋著「一日の行楽」（館林の廓魂）（青文館）より
旧館林藩士一業見番組合事務所
昭和十三年（一九三八）に料亭と芸妓置屋組合の事務所として建てられ、花街の歴史を伝えます。屋根に特徴があり、平成二十八年（二〇一六）に国の登録有形文化財となりました。
青龍の井戸
徳川綱吉が館林藩主の頃、この井戸から女官姿の弁財権現が姿を現したといいます。竜の井や城沼にうたがついているとの伝説があり、市民に親しまれています。
青梅神社（青梅天満宮）
祭神は菅原道真公。館林城大手門付近にありましたが、「柳原康政の城下町整備で現在地に移転したとされます。本殿は寛永十八年（一六四一）再建、社殿は文久二年（一八六二）改築。
大通寺
江戸時代は善導寺の役寺として栄えていた浄土宗の寺院。天保六年（一八三五）に館民善導寺騒動（館林義民事件）の首謀者三名の父母らの墓があり、市の史跡に指定されています。
竜の井（たつのい）
かつてこの地にあった善導寺本堂前の井戸です。寺が城沼の北からこの地に移ると味とき、沼に棲む龍神の棲むこの井戸に祟りを消したとの伝説があります。
柳原康政の墓跡の碑
徳川四天王のひとり柳原康政が葬られた善導寺は、駅前開発に伴い昭和五十二年（一九七七）にこの地から北内堀に移転しました。柳原康政の墓はこの場所にありました。
館林駅
城下町の南西隅の善導寺敷地内に明治四十年（一九〇七）、東武鉄道の開通と同時に開設。駅舎は昭和十二年（一九三七）改築のもので、現東の駅百選に選ばれています。
時代小説に登場する館林城下町
「八重です。「兄上」千佳代振り返る。「館」の一部と芳の助は外出したが、屋敷の向こう側が町人の暮らす町の通りになっている。（中略）
火事は城の北の方角に上がっていた。（中略）
家の多くが木造の平屋建てで、あっという間に火事になった。
御城内の代官町まで飛び火するという大火事だった。
安住洋子著「運命なる城沼」（小学館）より
この「歴史の小径」マップについて
この地図は、江戸期の２枚の絵図（※１・２）を合成した古地図に、現在の地図と建物の屋根形状を重ねたものです。
地図の上下の縁に描かれている建物の姿は、「歴史の小径」に面する現在の建物の連続立面図で、上辺が小径から南方向を見たもの、下辺が北方向を見たものです。
※１「延宝二年　館林城下町絵図」青山家蔵
※２「館林城絵図（秋元氏時代）」館林市立資料館蔵
●：観光案内所
⌂：案内板
⌂：城下町町名標示板
0m　50m　100m　150m
北東
北
北西